

小学校第5学年 社会科 学習指導案

平成30年6月21日（木）5校時

小学校 第5学年 6名

指導者 T1 学級担任

T2 栄養教諭

1 小単元名 これからの食料生産 内容（2）ア、ウ

2 小単元設定の理由

（1）教材について

本小単元では、学校給食など身近な食べ物から日本における食料自給率の低下や食料輸入量の増加といった問題に視野を広げていくことで、児童自身に大きく関わることを意識させ、現代社会の食料生産の課題をとらえさせる。日本の食生活は輸入に頼っており、安全な食料を安定的に得るために多くの人々の努力があり、海外の自然環境に影響を及ぼす場合もある。一方で、国内の食料生産を続けていくためには良質な作物づくりや生産の効率化等が重要であるが、生産者人口の減少や輸入食品との価格競争などの問題がある。

近年では、食料品の「地産地消」に対する社会の意識が浸透している。各地の農産物直売所の活性を見るように、地産地消の取組は身近な地域から日本の食料供給を支えている。地産地消は食の安全性や品質、鮮度、輸送費のコスト削減などの面においても優れており、消費者と生産者の双方に利点がある。内閣府においても、学校給食に関する方針として、使用食材のうち地元で生産された食材の割合が30%に達することを目標に掲げている。生産者の努力や工夫が形となった地産地消は、これからの日本の食料生産を考える教材としてなくてはならないものである。

（2）児童の実態

5年生児童は好奇心旺盛で積極的な子どもたちである。食料生産の単元においても、給食献立に使われている食材がどこから来ているのか自発的に考え、分からなければ栄養教諭に尋ねる行動力をもっている。

5年生は、昨年の〇〇ゼロウェイストについての調べ学習を通して、食べ物を大切にしたいという気持ちが育まれている。本年では、児童は米作りの体験活動も行っており、生産者の苦労や願いをより本質的にとらえる機会が多い。そのほか、給食の残食の様子を見ると完食している日が多い。しかし、生活習慣アンケートでは、給食に嫌いなものが出た場合、残さずに「全部食べる」と回答する児童は75.0%である。児童の半数以上（66.7%）は苦手な食べ物があり、食べ物を残すことについては「よくない」と回答する児童も66.7%にとどまることから、食べ物を大切にする気持ちは、まだ改善の余地があると言えるだろう。

（3）指導の工夫・留意点

食料の安定確保のためには、食料自給率、食の安全性、生産人口、自然環境、価格競争など複数の課題がある。それらをキーワードに児童の考えを深めさせたい。児童にとって身近な給食の中にある地場産物を手がかりに、地域でとれる食料を食べることの良さや生産者の工夫を調べることで、地産地消の取組に気付かせるべきだろう。ただし、地場産物だけでは国内の全ての食料供給に対応できない。現代社会の食生活の豊かさは輸入食品に支えられる面が大きく、安易に食料輸入に対して否定的な見方にならないように留意しておくべきである。日本の食料生産は人々の工夫や努力で成り立つものであり、食料を無駄にしない消費と供給のバランスをはかる食の環境保全や食品ロスの問題についても考えさせたい。

3 小単元の目標

○日本の食生活は輸入に頼っており、安全な食料を安定的に得る上で働く人の減少、環境への影響、安全性、自給率の低下などの問題点があることをとらえ、これからの食料生産のあり方を考えようとする。

○国内で食料生産を続けていくためには、質の高い作物づくりや、効率のよい生産、地産地消の取組などの必要性について考えを深め、表現する。

4 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の食料生産が抱えている問題を意欲的に追及し、これからの食料生産や食生活の発展について関心をもって考えている。	日本の食料生産の様子から学習問題を見いだして追求し、それが食料確保に重要な役割を果たしていることや自然環境に深く関わっていることについて、思考・判断したり、ノートに表現したりしている。	日本の食料生産の様子を的確に調査したり、食料の輸入量や自給率など、日本の食料生産の現状や課題について、グラフや写真を通して適切に読み取ったりまとめたりしている。	日本の食料生産の現状や課題をとらえ、食料を安定して確保することの大切さや自然環境との強い繋がりを理解している。

5 食育の視点

食物を大事にし、食物の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。(感謝の心)

各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。(食文化)

6 小単元の指導計画(学習指導・学習評価の計画) 総時数6時間

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎資料 ◇留意点 ◆評価
① つ か む	学校給食など身近な食料の自給率や輸入食品が増えた理由などを調べ、地産地消の広がりをつまめ、これからの食料生産をどのように進めればよいか関心をもって考えることができる。	○様々な食料を挙げる。 ・魚、肉、野菜、果物など ○自分はどのような食材を買いたいのか、値段の違いや食の安全性などの観点から話し合わせる。 ○身近な食料の自給率を調べ、その低さに気付く。 日本はなぜ多くの食料が輸入されるようになったのだろう。 ○身近な食料の自給率をグラフから調べたり、食料の輸入が増えた理由を資料から読み取ったりしながら、食料自給率の低さについて考え、学習問題を立てる。	◎各種食料の写真 ◎食料の自給率グラフ ◇調査や資料で分かったことをもとにした話し合いを通して、日本の食料生産に関する課題を見いだして学習問題を立てさせる。 ◆食糧の輸入の増加が食料生産に与える影響や食料の安定確保について調べる学習問題を考え、表現している。 (思・判・表/発言・ノート)
② 調 べ る	日本の食料自給率と食料輸入量について調べ、私たちの食生活が輸入食品に支えられていることをとらえることができる。	食料の輸入が増えると、どのような問題が起きるのだろう。 ○食料の輸入が増えることでどのような影響がもたらされるのか、グラフや写真を読み取って調べ、考える。 ・食料自給率の低下 ・輸入ができなくなった場合のリスクなど	◎各種食料の写真 ◎食料の自給率グラフ ◇食生活の変化によって、食料の輸入が増え、食料自給率が低下するなどの問題が生じていることをつかませる。 ◆食料輸入の増加の影響や課題について、グラフや写真などの資料から的確に読み取っている。 (技/発言・ノート)

③ ま と め る 本 時	これからの日本において、食料生産を続け、食料を安定して確保するためにどうすればよいのか、見直すべき課題はどんなことか、考えることができる。	○給食献立の写真や食料自給率グラフを見て、自給率低下による国内の食料生産に不安はないか考える。 わたしたちが食料を安定して確保し続けるために、大切なことは何だろう。 ○給食献立から地産地消を考える。 ○地産地消が日本の食料問題の解決の糸口になることをつかむ。 ○自然環境や食品ロスもふまえながら、食料生産の考えをまとめる。	◎各種食料の写真 ◎食料の自給率グラフ ◇食料の安定確保のためには、食料生産を続けるための様々な工夫や努力、地産地消の取組などを通じた食生活の見直しが大切であることを考えさせる。 ◆食糧の輸入の増加が食料生産に与える影響や食料の安定確保について調べる学習問題を考え、表現している。 (思・判・表／発言・ノート)
④ ⑤ ⑥ 深 め る	これまでの学習を振り返り、食料生産が抱える問題のテーマを選んで、根拠となる事実と共に新聞にまとめ、互いに意見を交流し合うことで、考えを深めることができる。	○日本の食料生産の現状や食料の確保のために必要だと思うことについて伝える 「フード新聞」を制作し、発表し合う。 日本の食料生産や食料の確保について学習したことを、新聞にまとめて伝えよう。	◎各種食料や給食の写真 ◎身近な食料の自給率グラフ ◇日本の食料生産について、「食料自給率」「食の安全性」「自然環境」「食料生産に携わる人の工夫や努力、未来への取組」などの視点から、新聞記事を考えさせる。 ◆根拠となる事実を選び出して自分の考えをまとめ、他の児童との交流を通して、自分の考えが深まったり、新たに気付いたりしたことなどを新聞にまとめる。 (思・判・表／発言・ノート)

7 本時の学習

(1) 目標

これからの日本において、食料生産を続け、食料を安定して確保するためにどうすればよいか、見直すべき課題はどんなことか、考えることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
10 分	1 日本の食料自給率と輸入食品の問題点を振り返り、めあてをつかむ。	T1 給食献立の写真やグラフから日本の食料自給率の低さと輸入食品の割合の高さ・輸入食品の問題点を確認させる。	
わたしたちが食料を安定して確保し続けるために、大切なことは何だろう。			
5 分	2 地場産物を使えば輸入に頼らなくてもよいことに気付く。	T2 給食で実際に使う物資表を参考にする。 T1 学校給食の中にある地場産物（アメゴ）に気付かせる。	
5 分	3 産直市を知る。	T1 地元や近隣の産直市を知らせ、地産地消に興味をもたせる。	
10 分	3 地産地消が推進される理由を考える。	T2 地場産物の直売所の写真や資料を提示し、身近にあることを気付かせる。 T1 食品のおいしさ（旬）、品質への信頼、安全性、輸送コストと価格、環境への配慮などの推進される理由を、読み取ったり、想起したりさせる。	
15 分	4 食料の安定確保のために地産地消と輸入食品をどのように扱うか、考えをまとめる。	T1 自給率、安全性、生産人口、環境面、価格などに着目させ、考えを表現できるように、気付きやつぶやきを積極的に取り上げる。 T1 米づくりで体験した生産側の苦労や工夫にも注意をもたせる。 T1 ホワイトボードを使って発表させることで、意見を共有させ、考えを深めさせる。	【思考・判断・表現】 輸入食品に依存する日本の食料問題について、国内自給率を高めることで、より安定した食料生産を考えることができる。 (ワークシート)

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	輸入食品の活用だけでなく、食料を国内で生産して自給率を高めることによって、より安定した食料確保ができることを資料等を使って考えることができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	生産者の悩みや課題を丁寧に振り返らせ、「自給率、安全性、自然環境、生産者の減少と高齢化、価格」などを生産者や消費者の視点から考えたり他の意見を参考にしたりするよう助言する。

8 他教科との関連

第5学年 総合的な学習の時間「米づくり体験活動」

9 授業細案

指導者の発問・支援等	予想される児童の反応等
T1 これは先日の給食献立の写真です。 T1 まちがい探しをしましょう。2枚の写真で違うのはどこでしょうか？ T1 魚（サバ）が半分になっていますね。きゅうりが減っています。すまし汁も減っています。豆腐はなくなっています。ごはんはほとんど変わっていませんね。 T1 この写真は魚なら52%，野菜なら79%，大豆なら7%，これって…？ T1 そうですね。前の時間に学習した「食料自給率」を給食に当てはめた写真なのでした。（牛乳やゼリー・砂糖にも変化があることを知らせる。） T1 日本の食料自給率は低く、国産だけで私たちの食べ物を全てまかなうのは難しいのでしたね。今日は、このことについて、一緒に考えましょう。 T1 まず、p100を読んでおきましょう。誰か、読んでください。	S サバです。 S 小さくなっている。 S 減っている。 S サバとか。野菜とか。 S 自給率。 S 牛乳やゼリーも減っている。
わたしたちが食料を安定して確保し続けるために、大切なことは何だろう。	
T2 今から、給食の先生になったつもりで考えてください。魚の輸入がストップしてしまいました。給食で、外国の魚が使えなくなりました。しかし、魚でなければとれない栄養があって、魚をどうしても給食に出したいのです。さて、みなさんなら、どうしますか？ T2 ここに、給食に使う魚介類の表があります。この表を参考にしましょう。 T1 どうやら、イワシなら千葉県なので使えそうですね。 T1 イワシだけでいいですか？ 毎週イワシにしますか？ ほかに？ T2 [] にもおいしい魚がいますよね。 T1 そう、アメゴです。アユもありますね。 T1 [] のアメゴやアユは「地元」でとれる魚です。 T2 給食では、地元の食品をよく使います。（献立表の利用、マーカー） T2 例えば、このお店、どこかわかりますか？ T1 みなさんはよく行きますか？ おうちの人がよく行きますか？ [] さんのように、地元のものをたくさん扱うお店を「産直市」と言います。ここに産直市の特集があります。 [] もありますね。1日に3,200人以上来ることもあるそうです。行ったことはありますか？ T1 では、どうして、[] さんや[] さんのような産直市は人気があるのでしょうか？ p101を読んでみましょう。（ふきだしも） T1 人気の理由を教えてください。 T1 「自分たちの住む地域で生産された食料を消費すること」を教科書では何と言っているのでしょうか。（シート、貼る。） T1 「地産地消」ですね。	S よそから買う。 S よそって？ S 海外産が多いなあ。 S 海外ばかり。 S このイワシは？ S ほかに、ないよ。 S え〜と…。 S アメゴ。 S [] です。 S 行ったことある。 S え〜と…。 S 地産地消？。 S とれたて、新鮮。 S 安全、安心。信頼。 S どこでとれたかわかる。 S 値段が安い。 S 地産地消。

T1 地産地消をすることで、「新鮮な食べ物」を「安く」、「安全性」を確認できて、「地域の産業の盛り上げる（活性化）」に繋げることなどができそうですね。 T1 食料自給率のこと、輸入食品が増えていること、地産地消のこと、またその前から「米作り」について社会の学習をしてきました。「わたしたちの食料を安定して確保し続ける」ために大切だと思うこと、あるいは心配だなと思うことを考えてみましょう。ワークシートに書くところがあるので、考えて書いてみましょう。 T1 ワークシートに書いたことを、ホワイトボードにも書いてみましょう。 p98, それから, p70 を読んでみましょう。(生産者の声) ●輸入がストップしても、食料を手に入れる方法は？ ●地産地消を増やす方法は？ ●地産地消を続けていく方法は？ ●生産者がやる気になる方法は？ T1 貿易によって海外からいろいろな食べ物が手に入ることで、学校の給食でも「豊かな食生活」ができます。しかし、輸入食品に頼りすぎず、国内生産を安定させること、日本の食料自給率を高めていくことが食料の安定確保のために大切だと言えますね。 T1 食料を安定して確保できるようにすることは今を生きる私たちにとって大きな課題です。安定確保すると言ってもいろいろな方法があると思います。給食が地場産物を活用するのもそのひとつです。みなさんも食料安定確保につながることを見付けてみてください。	S 全部、地産地消でいいんじゃないですか。 S う〜ん…。 S ないよ。 S 地産地消だけでは安定確保できない。 S 輸入の方が安い場合がある。 S 豊かな食生活は地場産と海外食品が両立しているから。 S 生産者人口が増えるようにしなくては。
---	---

10 板書計画

